

まとめ・評価・適用の時間が
なくなってしまう、
困っていませんか？



まとめ・評価・適用の時間を確保する

1時間で完結する授業づくりのポイント

～ゴール・まとめから授業を設計する～



段階	学習活動・内容	時間	教師の支援 ◇評価
導入	<p>深い児童理解と教材分析を！</p> <p>めあて</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめとの整合性を持たせる。 板書する 	5	<p>導 入</p> <ul style="list-style-type: none"> 導入の時間は、5分程度で。（目安です） 家庭学習、前時の学習とつないで。 前時のまとめ、児童のノート、掲示物などを使って効率的に。 必要感を持たせることが大切 教科にもよりますが、いつも「～調べよう」ではなく、「なぜ、～」など、児童の追究意欲を高めるものに。
展開	<p>学習活動</p> <p>～たくさんの子に、活躍の場を！～</p> <ul style="list-style-type: none"> 黒板に書く子と発表させる子を別に。 全員起立して自分の考え（まとめ）を説明し、終わった子から座るようにする。 ペアで説明 三人組で 一つの説明を途中から別の子に説明させる。 <p>※教師は、しゃべりすぎない。 ※教師が意図して子どもに話をさせることが大切</p>	30	<p>言語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが発表するだけの一方通行の言語活動ではなく、全員の思考と教師の発問により練り上げていく話し合いを。 ねらいを達成するための言語活動を。 話し合いをしても、ねらいの達成に効果的につながっていなければ、何のための言語活動なのかわかりません。 <p>評 価</p> <ul style="list-style-type: none"> ねらいを達成した具体的な児童生徒の姿を教師が持っていることが大切です。 誰ができて誰ができなかったのか、何人達成できたのかがわかるものであることが大切です。
終末	<p>子どもの「できた！・わかった！」が大切</p> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ねらいと対応したまとめに。 板書する。 	10	<p>まとめ・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめ・評価・適用の時間をしっかり確保 最低10分は必要（もっと時間をかけてもよい） 展開部分で理解できなかった子どももここで理解できるようにして終わることが大切です。

※時間などは、一般的な問題解決学習の場合の目安です。ねらいや指導の流れによって柔軟に。

※すべての授業が上記の型に当てはまるわけではありません。